

3. 事業計画の進捗・達成状況

1. はじめに

学園は今後も建学の精神と伝統を継承して「十年先、二十年先に役立つ人造り」のため、常に将来を見据え時代を先取りした教育体制の構築に尽力しつつ、着実な発展を続けていくための教育研究環境の整備充実に一層の力を注いだ。

2. 大学について

基本方針

大学開学20周年（平成7年）にあたり、学園創立以来の建学の精神と伝統を受け継ぎながら、男女共同参画、生涯学習、国際化社会、障がい者や環境にやさしい社会といった時代と社会の要請に応え、大学の理念を「違いを共に生きる」と定め、この理念を具体的に実現するため「地域に根ざし、世界に開く」「役立つものと変わらないものと」「たくましさやさしさを」の三つのテーマを掲げ、男女共学体制に移行した。

その後、この理念にそって、学部、研究科の設置、改組を進めるとともに、学生の学びの質を充実するために、常にカリキュラムを検討し、教育研究体制の改善充実に努めてきた。

また、地域社会に貢献し連携をさらに図るため諸機関の附設を行ってきたところである。

2024年度も、この基本方針の下に策定した、「愛知淑徳大学ビジョン2020」及び「中期計画2020年～2024年」に基づき、学校教育法第109条第2項に規定する認証評価の結果を踏まえて、次のような事業に取り組んだ。

（1）2025年度開設新学部等の設置概要

① 教育学部教育学科の設置

2025年4月、既設の文学部教育学科を改組（独立学部へ変更）し、「教育学部教育学科」〔入学定員140人、収容定員560人〕を開設した。2年次から希望する3つのコース（「学校教育コース」、「英語教育コース」、「特別支援教育コース」）に分かれる緩やかなコース制を設定した。

取得可能な資格は、所属するコースによる制限はなく、「小学校教諭一種免許状」、「特別支援学校教諭一種免許状」及び「中学・高等学校一種免許状（英語）」などである。

なお、「教育学部教育学科」の設置に伴い、文学部総合英語学科及び教育学科は募集停止とし、文学部は国文学科〔入学定員95人、収容定員380人〕のみの単一学部・学科とした。

② 建築学部建築学科の設置

2025年4月、既設の創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻を

改組（独立学部へ変更）し、「建築学部建築学科」〔入学定員130人、収容定員520人〕を開設した。「建築・まちづくり専攻」〔募集人員70人〕と「住居・インテリアデザイン専攻」〔募集人員60人〕の2専攻制を設定した。

取得できる国家資格（受験資格含む）や民間資格は、所属する専攻による制限はなく、当該資格に関連する科目を修得することにより、一級建築士やインテリアプランナーなど建築関係をはじめとする様々な資格取得を興味関心に応じて自由に目指すことが可能である。

なお、「建築学部建築学科」の設置に伴い、創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻は募集停止とし、創造表現学部は、創造表現学部創造表現学科創作表現専攻〔入学定員95人、収容定員380人〕、メディアプロデュース専攻〔入学定員130人、収容定員520人〕の2専攻制とした。

③ グローバル・コミュニケーション学部の定員変更

2025年4月、「グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科」〔入学定員60人、収容定員240人〕を〔入学定員80人、収容定員320人〕に定員変更した。

これに伴い、交流文化学部交流文化学科〔入学定員280人、収容定員1,120人〕を〔入学定員260人、収容定員1,040人〕に定員変更した。

なお、大学全体の入学定員2,150人、収容定員8,600人の変更はない。

（2）情報活用及びデジタル活用に関する組織体制を整備し、情報の連携効率化を図る。

- ① I R活動の具体的な内容、組織等について学修・教育支援センターを設置することを決定し、2025年度からの実効に向けて体制を整えた。
- ② より合理的で汎用性の高い教員の人事管理用事務システムを構築し、I C TによるD X化を強力に推進した。
- ③ 教学I Rの一環として、学習成果の可視化に向けた項目設定、システム設計、ルールの策定を行った。

（3）教育研究体制の充実

中期計画を踏まえ教育研究等環境の充実のため、全学 Wi-Fi 環境整備、1号棟・13号棟新築に伴う改修工事技術コンサルティング業務委託、センタースクエア陶板埋め込み工事、一般教室の教卓機器（制御機関連含む）のリプレイス、食創造科学科の教育研究活動用備品購入、国文学科のアクティブラーニングルーム設置改修工事、学修・教育支援センター等の設置のための改修工事、GHP空調機更新工事、サロンシーボー（食堂）の屋上防水更新工事、数学・情報サロン設置のための改修工事、スポーツ・バイオニクスシステム導入、聴性脳幹反応検査機器（ABR）更新、図書館システム LIMEDIO リプレイス、アトリエ教室の機能拡充、緑風館改修工事、図書館南棟研究室等の除湿機新設工事、エスカレーターの各稼働

部品交換及びメンテナンス、加圧給水ポンプ更新工事、個人研究室の新設工事、勤怠管理システム及び規程管理システム導入、オープンキャンパス、各種入試集客のための広報、クリニック眼科機器のリプレイス、淑友館の土地及び施設の下呂市への譲与等を行った。

3. 中学校・高等学校について

2024年度は、ICT環境整備における教室のプロジェクター更新整計画（3年計画）の最終年にあたり、特別教室と西棟の普通教室のプロジェクター整備が行われた。普通教室・特別教室におけるICT環境整備については、電子黒板機能による教材提示や生徒発表のため周辺機器としてのプロジェクター整備が欠かせないものである。この整備により、ICTを活用した授業やHR活動がより進むことになり、愛知淑徳中高の中期計画で示された、学習に取り組む意欲を高め、自ら学習する習慣・態度を身につけさせることにも大きく寄与することになった。

空調設備の整備においては、西棟2・3階のGHP空調機更新工事（6年計画の2年目）を行った。中高校舎のGHP空調機は、新校舎竣工から18年が経過し空調故障の恐れが生じているが、授業・入学試験等に与えるリスク（熱中症、試験環境の不平等）を回避するため、リニューアル工事を6年計画で行っている。教室以外の空調整備については、段階的に実施しており、2024年度は中央棟3階大アリーナの空調設備の新設を行った。大アリーナは、日常的に体育の授業やクラブ活動に使われるばかりでなく、入学式・卒業式などの式典、学園祭に代表される各種行事が頻繁に行われる施設であり、この施設の空調施設整備が、夏季を中心とする熱中症の対策となり、さらに生徒の教育環境の充実に大きく寄与することになった。